

地方独立行政法人 大阪健康安全基盤研究所
平成 29 事業年度にかかる業務の実績に関する報告書
資料集

目 次

| | | |
|-----|-------------------------------|----|
| 1 | 調査研究課題 | |
| 1-1 | H29 調査研究課題一覧 | 1 |
| 1-2 | H29 調査研究評価委員会評価結果 | 8 |
| 2 | 外部資金等への応募と採択結果 | |
| 2-1 | H29 外部資金等応募状況 | 11 |
| 2-2 | 科研費細目別採択件数上位 10 機関（衛生学・公衆衛生学） | 12 |
| 2-3 | 科研費採択状況・機関別比較（H26～H29） | 13 |
| 3 | 受託研究・共同研究 | |
| 3-1 | H29 受託研究一覧 | 14 |
| 3-2 | H29 共同研究一覧 | 15 |
| 4 | 研修指導 | |
| 4-1 | 府内関係職員への検査業務に関する技術研修 | 16 |
| 4-2 | 国内外の公衆衛生関係者に対する研修・講演・見学 | 17 |

調査研究課題一覧

①社会的ニーズにより設定された調査研究課題に対し、以下のような調査研究を行った。

1 腸管感染症及び類似疾患における細菌学的研究

【研究内容】

- ・国立感染症研究所の研究班に参加し、次世代シーケンサーによる各種腸管系病原細菌の全ゲノム解析を実施した。(細菌)

【成果】

- ・得られたデータから、新規の病原因子を検索して、原因不明の食中毒事例の解明に繋げる。〔食安課、C〕

2 細菌性呼吸器感染症に関する調査研究

【研究内容】

- ・溶血性連鎖球菌に関して、流行株の血清学的解析を実施した。(細菌)

【成果】

- ・この調査で流行状況を把握することは、今後の本菌による感染症の拡大防止に役立つ。〔医対課、C〕

3 結核菌及び非結核性抗酸菌に関する研究

【研究内容】

- ・薬剤耐性結核菌のモニタリング、結核菌の分子疫学調査及び府内で出現頻度の高い同一遺伝子型多剤耐性結核菌 V02 群の病原性の解析に関する研究を実施した。(細菌)

【成果】

- ・集団事例の掘り起こしや多剤耐性菌のまん延防止に役立つ。〔医対課、B〕

4 細菌性食中毒に関する研究

【研究内容】

- ・新規の食中毒原因菌の可能性のある *Staphylococcus argenteus* の病原因子等の解析、イムノクロマト法を利用した *Campylobacter jejuni/coli* の簡易迅速鑑別法の開発、リステリア菌の病原性評価手法の開発をそれぞれ実施した。(細菌)
- ・府内で発生した腸管出血性大腸菌の食中毒事例において、遺伝子解析を行う。(細菌)

【成果】

- ・原因不明の食中毒事例の解明、検査の迅速化、新規検査法の開発に繋がる。〔食安課、A、C〕
- ・他県発生事例と同一であったことから、感染源が他県と推定し、結果を府（医療対策課）に還元した。〔医対課、B〕

5 食品内で産生される細菌毒素に関する研究

【研究内容】

- ・BEC産生性ウェルシュ菌の汚染実態調査及びBECの病原性及び検出法に関する研究、*Kudoa*属粘液胞子虫の病原性及び迅速検出法に関する研究をそれぞれ実施した。(細菌)

【成果】

- ・原因不明の食中毒事例の解明、新規検査法の開発に繋がる。〔食安課、A、C〕

6 魚介毒及びノロウイルスに関する研究

【研究内容】

- ・当研究所で開発した麻痺性貝毒検査キットの国内6箇所の水産試験場(大阪府、熊本県、佐賀県、長崎県、大分県、北海道)への試験的配布、ノロウイルスの新規遺伝子型に対応可能とするための遺伝子検査法(Lamp法)の改良、をそれぞれ実施した。(細菌)

【成果】

- ・それぞれの食中毒事例(麻痺性貝毒、ノロウイルス)の発生防止に貢献した。〔食安課、A〕

7 寄生虫に関する研究

【研究内容】

- ・ジビエ中の寄生虫や洞窟由来真菌株の遺伝子レベル解析を実施した。(微課)

【成果】

- ・野生動物肉の普及を受けて、安全性確保のための基礎的情報を蓄積している。〔生衛課、C〕

8 動物由来感染症に関する研究

【研究内容】

- ・イヌ・ネコ等の動物由来感染症病原菌等を調査した。(微課)

【成果】

- ・保菌の実態を示し、大阪市民へ「動物との上手な付き合い方」について啓発した。〔生衛課、C〕

9 薬剤耐性菌感染症に関する調査研究

【研究内容】

- ・大阪大学、府内保健所大阪市保健所と共同でVREによる大規模院内感染事例の解析を実施した。(細菌、微課)
- ・府内で分離された薬剤耐性菌について、遺伝子型別解析を独自に実施した。(細菌)
- ・府内における薬剤耐性菌の院内感染事例や地域内流行への対策に活用するために、府全域をカバーする分子疫学解析ワークフロー及びデータベースを構築し、細菌課・微生物課共同で運用する。(重点研究：細菌、微課)

【成果】

- ・今後の府内の医療機関での院内感染の発生防止に貢献した。〔医対課、保健所、府内医療機関、B〕
- ・データから院内感染が疑われる事例が認められた場合は、保健所を通して該当医療機関に情報提供し、院内感染の拡大防止に貢献した。〔医対課、保健所、府内医療機関、イ〕

- ・今後、このワークフロー及びデータベースを実践的に用いることで、薬剤耐性菌の拡散予防対策に貢献することを目指す。〔医対課、保健所、府内医療機関、C〕

10 腸管感染性ウイルスに関する研究

【研究内容】

- ・ノロウイルスの遺伝子型の解析及び疫学研究、アストロウイルス、サポウイルス、ロタウイルス、A型肝炎、E型肝炎の検出、患者や環境水からの多様なエンテロウイルスの検出・解析を実施した。(ウイ)

【成果】

- ・迅速に府（医療対策課）・府内保健所に情報還元され行政対応に活かされた。また、厚生労働省が実施する流行予測調査事業として結果が報告され、国の施策に貢献した。〔医対課、保健所、厚労省、D〕

11 ウイルス性呼吸器感染症の研究

【研究内容】

- ・流行シーズン後のインフルエンザウイルス亜型の追跡、薬剤耐性株の解析、アデノウイルスの遺伝子解析を実施した。(ウイ)

【成果】

- ・解析結果を府（医療対策課）・府内保健所に情報還元した。さらに研究成果が国立感染症研究所に情報還元されて国レベルでの流行状態把握、ワクチン株の選定などの行政施策に活かされた。〔国感研、D〕

12 麻疹・風疹等の発疹を主徴とするウイルス感染症に関する研究

【研究内容】

- ・成人の麻疹に関してウイルス遺伝子の解析、抗体保有に関する解析を実施した。(ウイ)

【成果】

- ・麻疹の行政検査結果は府（医療対策課）へ詳細に還元され、行政対応に活かされるのに貢献し、昨年府全域で起こった成人でのアウトブレイクのような事態に迅速に対応するのに役立つ。〔医対課、B〕

13 衛生動物を介する感染症に関する研究

【研究内容】

- ・手足口病流行状況解析と陽性株の分子疫学解析を行った。(微課)
- ・デング熱、ジカウイルス感染症、チクングニア熱などの輸入感染症及び日本紅斑熱などのリケッチア症の迅速診断、媒介者である蚊・マダニ及びそれらが保有する病原体の調査を実施した。(ウイ)

【成果】

- ・これらの研究結果の情報提供とともに、学術誌へ投稿して広く啓発を促した。〔保健所、B〕
- ・これらの研究成果は、迅速に府（医療対策課）に情報還元され、海外からの輸入感染症例の把握及びその対応に役立てられた。また、蚊媒介性ウイルスのサーベイランスにお

ける府（環境衛生課）・府内保健所への情報還元、アライグマの日本紅斑熱リケッチアの保有状況調査による動愛課への情報還元を通じて府の衛生監視に貢献した。〔医対課、環衛課、保健所、動愛課、D〕

14 衛生動物に関する研究

【研究内容】

- ・大阪市内緑地 6 ヶ所での蚊類の生息状況調査を 5 月～10 月に実施した。（微課）

【成果】

- ・蚊類群集の変動を明らかにした。また、ヒアリ疑いなどの衛生昆虫類の同定試験を約 40 件行った。〔生衛課、C〕

15 HIV 及びその他の性感染症に関する研究

【研究内容】

- ・HIV 感染者の継続的な確認検査及びフォローアップ、検査受験者増加対策に関する研究、性感染症としての B 型肝炎・梅毒の検査を実施した。（ウイ）

【成果】

- ・迅速な医療機関及び府（医療対策課）への情報還元、新たな患者の発掘及び実態把握を通じてエイズ対策に貢献した。〔医対課、医療機関、B〕

16 食品添加物等に関する衛生学的研究

【研究内容】

- ・蒸発残留物試験や着色料試験の共同試験に参加し、試験法の性能評価を行った。（食 1）
- ・HPLC 及び LC/MS/MS による食品中の人工甘味料の一斉分析法の検討を実施した。（食 2）

【成果】

- ・今後公定法となる予定の試験法の設定に大きく寄与した。〔食安課、B〕
- ・人工甘味料検査の迅速化に繋がる。〔生衛課、A〕

17 器具・容器包装等に関する衛生学的研究

【研究内容】

- ・食品用器具・容器包装等に使用される化学物質に関する研究を実施した。（食 1、食 2）

【成果】

- ・今後予定されているフタル酸エステルの規制範囲の拡大にともなう試験法の設定のための基礎的な知見となる。〔食安課、C〕
- ・これから問題となる化学物資の検索に役に立ち、行政に情報提供が可能となる。〔生衛課、C〕

18 健康危害物質に関する衛生学的研究

【研究内容】

- ・有毒キノコの迅速鑑別法の開発、ウェルシュ菌毒素の機器分析法の開発を実施した。（食 1）
- ・ヒスタミンによる食中毒の原因究明のための迅速検査法の確立を実施した。（食 2）

【成果】

- ・食中毒への迅速な行政対応に役立つ。〔食安課、A〕
- ・収去検査の迅速化に繋がる。〔生衛課、A〕

19 食品中の残留農薬等に関する研究

【研究内容】

- ・放射線照射食品の検知法の開発、カビ毒の一斉分析法の開発を実施した。(食1)

【成果】

- ・放射性照射食品の検知法の開発は、国内外の消費者に適切な商品情報を提供することに繋がる。またカビ毒の一斉分析法の開発は、試験法の迅速化や検査項目の拡充に繋がる。〔食安課、C〕

20 食品中に残留する微量有害物質に関する研究

【研究内容】

- ・動物用医薬品の分析法の開発、貝毒の機器分析法の開発を実施した。(食1)
- ・畜水産物における残留抗菌性物質と微生物応答との相関性の確認及び残留動物用医薬品分析法の改良を実施した。(食2)

【成果】

- ・得られたデータの信頼性を高め、行政検査の迅速化や高精度化に繋がる。〔食安課、A〕
- ・収去検査の迅速化に繋がる。〔生衛課、A〕

21 食品中のアレルギー物質等に関する研究

【研究内容】

- ・大豆アレルゲンタンパクのLC/MS/MSによる分析法の開発等を実施した。(食1)
- ・アレルギー物質を含む食品の検査法の改良と精度管理に関する研究を実施した。(食2)

【成果】

- ・検査項目の拡充や迅速化に繋がる。〔食安課、C〕
- ・収去検査の信頼性を高めることが可能である。〔生衛課、A〕

22 食品の栄養及び機能性に関する研究

【研究内容】

- ・高齢者向け多機能食品の機能評価を実施した。特別用途食品に関する研究であり、食品の開発、分析精度の向上を目的とする。(食2)

【成果】

- ・消費者庁が管轄するこの制度の維持につながる。〔消費者庁、A〕

23 残留性化学物質によるヒト曝露とその影響に関する研究

【研究内容】

- ・残留性化学物質及びその代謝物に関する汚染実態調査、毒性評価を実施した。(食1)

【成果】

- ・今後問題となる可能性がある化学物質の汚染実態の解明に役立つ。また、ヒトへの健

健康影響を予測するための基礎的な知見となる。〔食安課、C〕

24 医薬品等の品質確保及び健康被害防止に関する研究

【研究内容】

- ・生薬について、分析法の開発に取り組んだ。(医薬)〔薬務課、A〕

25 危険ドラッグに関する研究

【研究内容】

- ・危険ドラッグについて、新規乱用薬物の分析法の開発及び活性評価に取り組んだ。(医薬)〔薬務課、B〕

26 家庭用品に関する衛生学的研究

【研究内容】

- ・家庭用品に含まれる有害物質の試験法開発に関する研究を実施した。(生環、食2)
- ・革製品等におけるアゾ染料の使用実態と健康影響に関する調査を実施した。(食2)

【成果】

- ・現状に沿った試験法の開発及びその迅速化に繋がる。〔環衛課、B〕〔厚労省、A〕
- ・アゾ色素の使用実態が明らかになり、行政施策に資することができる。〔生衛課、B〕

27 環境微生物に関する調査研究

【研究内容】

- ・レジオネラ属菌及び自由生活性アメーバ等の検出法開発及び汚染実態調査を実施した。(生環)〔環衛課、B〕

28 住居と職場における有害化学物質への曝露状況と健康影響に関する研究

【研究内容】

- ・住居環境中の有害物質に関する汚染実態調査を実施した。(生環)〔環衛課、C〕

29 水道水の安全性に関する研究

【研究内容】

- ・水道水中に含まれる有害物質に関する検査法開発、汚染実態調査及び精度管理事業を実施した。(生環)〔環衛課、A、B、C〕

30 大気汚染及び住環境による健康影響に関する研究

【研究内容】

- ・亜硝酸の喘息への影響に関する基礎的及び疫学的調査を実施した。(生環)〔環衛課、B〕

31 環境放射能及び環境放射線の測定

【研究内容】

- ・大気及び降下物等に含まれる放射線量を継続的に測定した。(生環)〔原子力規制庁、B〕

調査研究課題は次年度以降も研究を継続する。(研究課題6及び31は終了した)

[主な大阪府・大阪市の行政還元先と略称]

府・医療対策課（医対課）
府・食の安全推進課（食安課）
府・環境衛生課（環衛課）
府・薬務課
府・動物愛護畜産課（動愛課）
市・感染症対策課（感対課）
市・生活衛生課（生衛課）
府内保健所・大阪市保健所（保健所）

[行政還元の方法]

- A 現行の行政検査等の迅速化、精度向上など（検査方法の開発等）
- B 現在、問題となっている行政での課題への対応
- C 今後、問題となってくる行政での課題への事前対応、準備対応
- D 説明会などによる行政等への情報提供

H29 調査研究評価委員会評価結果

平成30年1月24日（水）午後1時30分から5時30分 本館4階 講堂

○評価委員

| 氏名 | 所属 | 職名等 |
|---------|--------------------|-----|
| ◎ 小林 和夫 | 堺市衛生研究所 | 所長 |
| 津村 ゆかり | 近畿厚生局 麻薬取締部鑑定課 | 課長 |
| 朝野 和典 | 大阪大学 医学部 | 教授 |
| 福島 若葉 | 大阪市立大学 大学院医学研究科 | 教授 |
| 三宅 眞実 | 大阪府立大学 生命環境科学部獣医学科 | 教授 |
| 山崎 裕康 | 神戸学院大学 薬学部 | 教授 |

◎委員長

(五十音順)

○評価基準

| 評点 | 研究の必要性 | 研究の内容 | 研究の成果 | 総合評価 |
|----|--------|----------|--------|----------|
| 1 | 欠ける | 劣る | 乏しい | 再考すべき |
| 2 | 低い | やや劣る | 十分でない | 改善を要する |
| 3 | 妥当である | 標準的である | 標準的である | 標準的である |
| 4 | 高い | 優れている | 標準以上 | 優れている |
| 5 | 非常に高い | 非常に優れている | 優れた成果 | 非常に優れている |

○評価結果

| 課題1 | 微生物部 | 細菌課 |
|--------|---|-------|
| 課題名 | 食品内で産生される細菌毒素に関する研究 ウエルシュ菌新型エンテロトキシン BEC (Binary Enterotoxin of Clostridium perfringens) に関する研究 | |
| 評価項目 | 研究の必要性 | 研究の内容 |
| 結果 | 3.8 | 4.3 |
| 委員コメント | <p>○他の地衛研でも測定可能な検査法を構築され、実際に近畿地区に配布されており、実用面でも評価できる。</p> <p>○研究方向性として、菌の検出・病原性解析、動物およびヒト由来菌の解析など、衛生行政に直接的に関与し、衛生行政や施策に科学的根拠を提供している。本課題や成果は大安研の設置目的にも合致し、研究内容は発展的で将来性が豊かである。</p> | |

| | | | | |
|------------|---|-------|-------|------|
| 課題 2 | 微生物部 | ウイルス課 | | |
| 課題名 | HIV およびその他の性感染症に関する研究 HIV 陽性例における B 型肝炎および梅毒の罹患状況の調査 | | | |
| 評価項目 | 研究の必要性 | 研究の内容 | 研究の成果 | 総合評価 |
| 結果 | 4.2 | 3.3 | 3.8 | 3.6 |
| 委員 コメント | <p>○研究方向性として、行政機関（保健所）、大阪検査相談・啓発・支援センター、医療機関と連携し、研究成果を公衆衛生の向上に寄与する方向性は高く評価されます。</p> <p>○大阪における HIV と STD の関係を継続的に検証した研究。社会的な梅毒の増加やユニバーサルワクチンの開始などの変化が、今後このデータにどのような影響を与えるか興味深い。</p> | | | |

| | | | | |
|------------|---|-------|-------|------|
| 課題 3 | 微生物部 | 微生物課 | | |
| 課題名 | ジビエ住肉胞子虫による寄生虫性食中毒のリスク評価 ジビエ住肉胞子虫の遺伝子解析による同定の試み | | | |
| 評価項目 | 研究の必要性 | 研究の内容 | 研究の成果 | 総合評価 |
| 結果 | 3.8 | 3.8 | 3.4 | 3.8 |
| 委員 コメント | <p>○狩猟で得た天然の野生鳥獣の食肉（ジビエ）の安全性は社会的に関心が高く、また、ジビエに起因する食中毒など健康被害に関する学術知見も乏しいため、良い課題設定と考える。</p> <p>○予備的研究ではありますが、今後の成果は、国民のみなさんにも大変興味あるところだと思います。ぜひ、シカの N 数を増やして検討を続けてください。</p> | | | |

| | | | | |
|------------|---|----------|-------|------|
| 課題 4 | 衛生化学部 | 食品化学 1 課 | | |
| 課題名 | 健康危害物質に関する衛生学的研究 高速液体クロマトグラフ-タンデム型質量分析計を用いたブドウ球菌エンテロトキシン分析法の検討 | | | |
| 評価項目 | 研究の必要性 | 研究の内容 | 研究の成果 | 総合評価 |
| 結果 | 3.7 | 3.5 | 3.5 | 3.6 |
| 委員 コメント | <p>○検出方法として抗原・抗体反応を用いるのは、コストがかかるので、LC/MSMS 分析法は低コストかつ定量まで可能である点、非常によい取り組みと思う。検査法としては期待できる。</p> <p>○市販検査キットが無い 6 種類を含む 11 種類のブドウ球菌エンテロトキシンの一斉分析をめざす研究である。市販キットの発売は市場性等の要因により必ずしも期待できるものではなく、LC/MS/MS で一斉分析が可能であれば有用性は高い。しかし現段階での検出下限は市販キットの 30~50 倍とのことであり、実用化に至るまでには相当高いハードルがあると考えます。</p> | | | |
| 課題 5 | 衛生化学部 | 食品化学 2 課 | | |

| | | | | |
|------------|--|-------|-------|------|
| 課題名 | 食品中の化学物質に関する研究 HPLC および LC/MS/MS による食品中の人工甘味料の一斉分析法の検討 | | | |
| 評価項目 | 研究の必要性 | 研究の内容 | 研究の成果 | 総合評価 |
| 結果 | 4.2 | 3.8 | 3.6 | 3.8 |
| 委員 コメント | <p>○レギュラトリーサイエンスとして重要な意義を持つ研究課題である。おおむね良好な成果を得ている一方で、解決すべき課題も多い。</p> <p>○超高甘味度甘味料とも呼ばれるアドバンテームが2014年に許可されるなど人工甘味料の状況が変化しており、多数の甘味料を一斉に分析できる方法は有用と思われる。</p> | | | |

| | | | | |
|------------|---|-------|-------|------|
| 課題6 | 衛生化学部 | 医薬品課 | | |
| 課題名 | 危険ドラッグに関する研究 アダマンチル基を有するカルボキサミド型合成カンナビノイドの異性体分析 | | | |
| 評価項目 | 研究の必要性 | 研究の内容 | 研究の成果 | 総合評価 |
| 結果 | 4.7 | 4.5 | 4.6 | 4.7 |
| 委員 コメント | <p>○危険ドラッグ対策において「指定薬物への迅速な指定」は重要な事項だが、本研究は異性体分析の視点から取り組み、成果は（厚生労働）大臣指定薬物（1化合物）や大阪府知事指定薬物（2化合物）として認定されている。分析化学による科学的根拠を行政施策に展開し、卓越した内容・業績と考える。</p> <p>○研究成果の英文誌上発表や外部競争的研究資金である科研費の獲得など、高い研究レベルと考える。また、危険ドラッグに関する国際的な動向や情報の収集・分析・更新など、適切に対応している。</p> | | | |

| | | | | |
|------------|--|-------|-------|------|
| 課題7 | 衛生化学部 | 生活環境課 | | |
| 課題名 | 水道水の安全性に関する研究 ホルムアルデヒドを生成する浄水処理対応困難物質の処理性 | | | |
| 評価項目 | 研究の必要性 | 研究の内容 | 研究の成果 | 総合評価 |
| 結果 | 4.3 | 3.6 | 4.2 | 4.0 |
| 委員 コメント | <p>○水道水の安全性に関し、ホルムアルデヒドを生成する浄水処理対応困難物質の観点から研究を推進し、行政需要の高い課題と考える。</p> <p>○厚生労働省が2015年に「浄水処理対応困難物質」14物質を設定したが対策は確立されていないことから、ホルムアルデヒドを生成する7物質について処理法を検討したものである。オゾン処理が優れた浄水法であることを示し、また、オゾン濃度の調整法に関する知見を得る等、安全な水道水の供給に直結する成果を上げている。</p> | | | |

H29外部資金等応募状況

| 助成主体 | | 応募数 | 採択数 | 助成金額 |
|------------------------|--------------|-----|-----|------------|
| 文部科学省 | 基盤研究(B)一般 | 5 | 1 | 6,500,000 |
| 文部科学省 | 基盤研究(C)一般 | 17 | 5 | 7,930,000 |
| 文部科学省 | 挑戦的研究(萌芽) | 4 | 1 | 1,690,000 |
| 文部科学省 | 若手研究 | 18 | 6 | 9,750,000 |
| 厚生労働省 | エイズ対策政策研究事業 | 1 | 1 | 8,000,000 |
| 環境省 | 環境研究総合推進費 | 1 | 0 | |
| (独)環境再生保全機構 | | 1 | 0 | |
| 内閣府食品安全委員会 | 食品健康影響評価技術研究 | 1 | 0 | |
| 大同生命厚生事業団 地域保健福祉研究助成 | | 12 | 5 | 1,500,000 |
| 公益財団法人 黒住医学研究振興財団 | | 2 | 0 | |
| 浦上食品・食文化振興財団 | | 2 | 1 | 2,800,000 |
| 大和証券ヘルス財団 | | 1 | 0 | |
| 公益財団法人 飯島藤十郎記念食品科学振興財団 | | 1 | 1 | 1,950,000 |
| 公益財団法人 篷庵社 | | 1 | 0 | |
| 公益財団法人 水産無脊椎動物研究所 | | 1 | 0 | |
| 一般財団法人 旗影会 | | 1 | 1 | 1,000,000 |
| 公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構助成 | | 1 | 1 | 800,000 |
| 株式会社ヤクルト研究助成金 | | 1 | 1 | 300,000 |
| 大阪大学微生物病研究所共同研究課題 | | 1 | 1 | 225,000 |
| | | 72 | 25 | 42,445,000 |

科研費細目別採択件数上位10機関(衛生学・公衆衛生学)

(過去5年の新規採択の累計数)

| 年度 | 26 | | 27 | | 28 | | 29 | |
|----|-------------|------|------------------------------------|------|-------------|------|----------------|------|
| 順位 | 機関名 | 採択数 | 機関名 | 採択数 | 機関名 | 採択数 | 機関名 | 採択数 |
| 1 | 東北大学 | 32.0 | 東京大学 | 29.0 | 大阪府立公衆衛生研究所 | 29.5 | 東京大学 | 28.0 |
| 2 | 東京大学 | 31.0 | 東北大学 | 27.0 | 東京大学 | 28.5 | 地独)大阪健康安全基盤研究所 | 23.0 |
| 3 | 名古屋大学 | 29.0 | 京都府立医科大学 | 27.0 | 東北大学 | 25.0 | 東北大学 | 21.0 |
| 4 | 大阪府立公衆衛生研究所 | 27.5 | 名古屋大学 | 25.0 | 京都府立医科大学 | 25.0 | 北海道大学 | 20.5 |
| 5 | 京都府立医科大学 | 22.0 | 大阪府立公衆衛生研究所 | 24.0 | 北海道大学 | 21.5 | 長崎大学 | 19.5 |
| 5 | 北海道大学 | 21.0 | 北海道大学 | 23.5 | 名古屋大学 | 19.0 | 産業医科大学 | 19.5 |
| 7 | 京都大学 | 20.5 | 長崎大学 | 22.5 | 長崎大学 | 18.5 | 京都府立医科大学 | 19.0 |
| 8 | 三重大学 | 20.0 | 京都大学 | 21.5 | 三重大学 | 18.0 | 名古屋大学 | 18.0 |
| 9 | 長崎大学 | 19.5 | 三重大学 | 21.0 | 京都大学 | 17.5 | 京都大学 | 16.5 |
| 10 | 産業医科大学 | 19.0 | 産業医科大学 | 17.0 | 産業医科大学 | 16.0 | 三重大学 | 14.0 |
| 10 | | | 地独)東京都健康長寿医療センター(東京都健康長寿医療センター研究所) | 17.0 | | | 和歌山県立医科大学 | 14.0 |

科研費採択状況・機関別比較(H26～H29)

| 機 関 名 | 【新規＋継続分】 採択件数 | | | | | | 配分金額合計(千円) | |
|-----------------------------|---------------|---------|-----|---------|-----|---------|------------|---------|
| | 26 | | 27 | | 28 | | 29 | |
| 地方独立行政法人 大阪健康安全基盤研究所 | / | | / | | / | | 26 | 36,920 |
| 大阪府立公衆衛生研究所 | | | | | | | 25 | 52,060 |
| 大阪市立環境科学センター | / | | / | | / | | 2 | 3,640 |
| 大阪市立環境科学研究所 | | | | | | | 9 | 14,300 |
| 北海道立衛生研究所 | 3 | 4,680 | 2 | 3,380 | 1 | 1,560 | 3 | 4,940 |
| 群馬県衛生環境研究所 | 10 | 19,370 | 9 | 13,650 | 6 | 8,450 | 3 | 4,940 |
| 千葉県衛生研究所 | 1 | 3,380 | 1 | 1,300 | 1 | 390 | 1 | 1,430 |
| 神奈川県衛生研究所 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1,690 |
| 富山県衛生研究所 | 4 | 5,980 | 4 | 4,550 | 3 | 2,730 | 3 | 4,160 |
| 静岡県環境衛生科学研究所 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2,340 | 2 | 4,290 |
| 愛知県衛生研究所 | 1 | 2,860 | 2 | 2,860 | 2 | 1,950 | 1 | 1,300 |
| 福岡県保健環境研究所 | 3 | 8,060 | 5 | 9,100 | 3 | 3,900 | 2 | 3,120 |
| 国立医薬品食品衛生研究所 | 38 | 118,820 | 60 | 132,080 | 63 | 125,580 | 56 | 106,320 |
| 国立感染症研究所 | 130 | 377,520 | 138 | 393,640 | 134 | 304,460 | 130 | 305,110 |
| 地方独立行政法人大阪府立 環境農林水産総合研究所 | 2 | 2,210 | 2 | 2,210 | 3 | 2,990 | 4 | 4,420 |
| 地方独立行政法人大阪府立 産業技術総合研究所 | 8 | 13,000 | 13 | 18,590 | 12 | 19,760 | 13 | 18,720 |
| 地方独立行政法人大阪市立 工業研究所 | 26 | 46,020 | 22 | 37,960 | 17 | 39,390 | 21 | 35,750 |

H29受託研究一覧

| No | 所属課 | 研究題名 |
|----|--------|---|
| 1 | ウイルス課 | 麻疹ならびに風疹の排除およびその維持を科学的にサポートするための実験室診断および国内ネットワーク構築に資する研究 |
| 2 | ウイルス課 | 国内流行HIV及びその薬剤耐性株の長期的動向把握に関する研究 |
| 3 | ウイルス課 | 培養細胞感染系が確立されていない病原体の新たな感染複製系等の開発とそれを用いた診断・治療・予防法の開発に向けた研究 |
| 4 | ウイルス課 | 下痢症ウイルスの分子疫学と感染制御に関する研究 |
| 5 | ウイルス課 | ヒト下痢症ウイルス培養法の構築検討 |
| 6 | ウイルス課 | インフルエンザウイルス株に対する抗体活性測定 |
| 7 | ウイルス課 | ノロウイルス検出キット性能評価 |
| 8 | ウイルス課 | インフルエンザ検査薬の反応性に関する研究 |
| 9 | ウイルス課 | ノロウイルス迅速診断試薬の開発研究 |
| 10 | ウイルス課 | 簡便迅速なノロウイルス検査試薬の開発 |
| 11 | ウイルス課 | ウイルスの核酸抽出装置の機能開発に関する研究 |
| 12 | ウイルス課 | A群β溶血連鎖球菌抗原迅速検出キットの交差反応性試験 |
| 13 | ウイルス課 | ソフトコンタクトレンズ消毒剤の有効性に関する研究 |
| 14 | 細菌課 | サルモネラ検出キットの性能評価 |
| 15 | 細菌課 | A群β溶血連鎖球菌に対する検査法に関する研究 |
| 16 | 微生物課 | 新型インフルエンザ等、新興ウイルス性呼吸器感染症等の診断機能向上のための研究 |
| 17 | 食品化学2課 | 食品用ペットボトルから溶出する化学物質の摂取量の推定に関する研究 |
| 18 | 食品化学2課 | 合成樹脂製器具・容器包装のリスク評価における溶出試験法に関する研究 |
| 19 | 生活環境課 | 大阪府建築物飲料水水質検査業における外部精度管理の実施及び検討 |
| 20 | 生活環境課 | 浄水処理対応困難物質の処理性調査 |
| 21 | 生活環境課 | 浄化槽面整備後の地域水環境への影響評価 |

H29共同研究一覧

| No | 所属課 | 研究題名 |
|----|--------|---|
| 1 | ウイルス課 | ヒトノロウイルスの腸管上皮細胞への進入機構の解明 |
| 2 | ウイルス課 | ノロウイルス検出キット性能評価 |
| 3 | ウイルス課 | 急速な病期進行あるいはセロネガティブ感染を伴う新型HIVの国内感染拡大を検知可能なサーベイランスシステム開発研究 |
| 4 | ウイルス課 | ノロウイルスのVirus like particles(VLPs)および抗体の作製とノロウイルスの抗原解析に関する研究 |
| 5 | ウイルス課 | 工業用新規抗ウイルス剤の探索 |
| 6 | ウイルス課 | タイ北東部における下水環境水由来 下痢症ウイルスのゲノム解析の技術支援 |
| 7 | ウイルス課 | ヒトノロウイルスのオルガノイドを用いる培養系の確立とその応用 |
| 8 | 細菌課 | 簡易測定手法を利用した熊本県における麻痺性貝毒モニタリング調査 |
| 9 | 細菌課 | ウェルシュ菌新型エンテロトキシン(BEC)に関する研究 |
| 10 | 細菌課 | 病原性大腸菌の新規分類手法の開発に資する研究 |
| 11 | 細菌課 | 簡易測定手法を利用した佐賀県における麻痺性貝毒モニタリング調査 |
| 12 | 細菌課 | MALDI-TOF MSを用いたS10-GERMS法を基盤とした食中毒菌の迅速プロテオタイピング |
| 13 | 細菌課 | 簡易測定手法を利用した長崎県における麻痺性貝毒モニタリング調査 |
| 14 | 細菌課 | サルモネラ属検出キットの開発および性能評価 |
| 15 | 細菌課 | 大腸菌およびその近縁菌種のゲノム比較と病原機構に関する研究 |
| 16 | 食品化学1課 | 食品中の汚染化学物質のP450酵素による代謝挙動の解明 |
| 17 | 食品化学1課 | 汚染履歴の判別に適用可能なキラル性POPsの網羅的解析法の構築 |
| 18 | 食品化学2課 | 記憶障害を伴う食中毒患者血清中のドウモイ酸分析 |

府内関係職員への検査業務に関する技術研修

| 研修対象 | 担当課 | テーマ | 対象 | 回数 |
|-------------|--------|------------------------|---------------------------|----|
| 保健所等検査担当職員 | ウイルス課 | 梅毒検査に関する研修と検査実習 | 大阪府保健所検査課職員 | 1 |
| | 食品化学2課 | 食品中の残留動物用医薬品分析法について | 大阪市食肉衛生検査所 | 3 |
| | 医薬品課 | 医薬品等の試験方法に関する基礎知識 | 大阪府 健康医療部 | 1 |
| | 微生物課 | 保健衛生検査所新配属職員研修 | 保健衛生検査所新配属職員 | 1 |
| | 細菌課 | カンピロバクター検査法について | 東大阪市環境衛生検査センター | 1 |
| | 生活環境課 | レジオネラ属菌検査の実務研修 | 大阪府保健所南ブロック環境衛生監視員 | 1 |
| | 生活環境課 | 家庭用品検査研修 | 八尾市職員 | 1 |
| (小計) | | | | 9 |
| 食品・環境衛生監視員等 | 細菌課 | 食品衛生監視員を対象とした検査技術研修 | 大阪府食品衛生監視員 | 4 |
| | 食品化学1課 | 動物用医薬品等の分析に関する研修 | 大阪府食品衛生監視員 | 3 |
| | ウイルス課 | 蚊媒介性感染症と蚊の同定研修 | 大阪府環境衛生監視員(新規採用職員)、八尾市研修生 | 1 |
| | ウイルス課 | ダニ媒介感染症に関する研修 | 大阪府藤井寺保健所、豊中市環境衛生監視員 | 3 |
| | 生活環境課 | 家庭用品検査研修 | 大阪府環境衛生課職員 | 1 |
| | ウイルス課 | 感染症媒介蚊の捕集調査及び駆除に係る実地研修 | 大阪府環境衛生監視員 | 1 |
| | ウイルス課 | 蚊媒介性感染症とウイルス検査研修 | 豊中市環境衛生監視員 | 1 |
| | 食品化学2課 | 魚介類中の残留PCB分析法の研修 | 大阪府中央卸売市場食品衛生検査所 食品監視員 | 1 |
| (小計) | | | | 15 |
| 精度管理 | 細菌課 | 腸管出血性大腸菌検査の外部精度管理 | 大阪府保健所検査課 | 1 |
| | 生活環境課 | 技術研修 | 大阪府水道検査担当者 | 2 |
| (小計) | | | | 3 |

合計 27

国内外の公衆衛生関係者に対する研修・講演・見学

| 研修対象 | 担当課 | テーマ | 対象 | 人数 |
|-------------|-----------------|--|------------------------------|----|
| 国際研修 | 細菌課 食品化学1課 | 食の安全に関わる検査の流れや技術を理解 | 山東省食品薬品监督管理局 | 20 |
| | 医薬品課 | 医薬品、化粧品、食品、化学品及び農薬の製品検査分野検査の運用と研究 | 中国貴州省人民政府直 中国貴州科学院 | 13 |
| | 生活環境課 | 水質環境の維持・改善にむけての取り組みと課題 | 広西チワン族自治区廃棄物リサイクル・汚水処理研修団 | 19 |
| | ウイルス課 | エイズ研修と所内見学（JICAエイズ研修（国際研修）） | 海外のHIV対策担当者 | 14 |
| | 細菌課 | 大阪府の結核の現状及び取り組み等について | 公益財団法人結核予防会結核研究所 | 10 |
| | 細菌課 ウイルス課 | 細菌学について | タイ王国 国立カセサート大学 公衆衛生学部の講師 | 1 |
| (小計) | | | | 77 |
| 大学・専門学校等の学生 | 医薬品課 | 平成29年度インターンシップ実習生の受け入れについて医薬品等検査施設業務内容研修 | 大阪府 健康医療部 インターンシップ実習生 | 2 |
| | ウイルス課 | 平成29年度インターンシップ実習生の受け入れについて環境衛生業務体験 | 大阪府インターンシップ実習生、藤井寺保健所環境衛生監視員 | 2 |
| | 食品化学1課 生活環境課 | 食品化学・生活環境における検査および研修に関すること | 摂南大学理工学部学生 | 2 |
| | ウイルス課 | HIVと梅毒に関する実習（国立病院機構大阪医療センター依頼） | 大阪大学医学部公衆衛生学実習生 | 6 |
| | 細菌課 | 疫学的検査や統計学、医療制度など社会水準での健康増進を目的とした知識 | 大阪医療技術学園専門学校学生 | 1 |
| | 食品化学1課 生活環境課 | 食品化学課ならびに生活環境課の業務説明、施設（分析機器等）の見学 | 大阪府立大学生命科学域獣医学類 学生 | 46 |
| | 生活環境課 | 見学・研修の受け入れ | 大阪医科大学看護学部 | 25 |
| (小計) | | | | 84 |
| 監視員 薬事員 | 医薬品課 | 近畿府県薬務主管課長会GMPチーム教育訓練の講演 | 近畿府県等の薬事監視員 | 49 |
| 水道検査 担当者 | 生活環境課 | 水道水質検査法に係わる講演会 | 水道検査担当者（民間、自治体） | 62 |

| | | | | |
|-----------|---------|--------------------------------|-------------------------|----|
| その他の研修・見学 | 生活環境課 | 研修（水道関係） | 大阪府保健所等配属の新規採用職員等 | 8 |
| | 生活環境課 | 研修（浄化槽関係） | 大阪府保健所等配属の新規採用職員等 | 7 |
| | ウイルス課 | 環境衛生分野のダニ対策に係る研修 | 和泉保健所環境衛生監視員及び自治医科大学研修生 | 7 |
| | 食品化学1課 | 食品検査の概要説明、検査見学 | 豊中市保健所職員 | 13 |
| | ウイルス課 | 日本脳炎感受性調査における検査法について | 千葉県衛生研究所 ウイルス研究室 | 1 |
| | ウイルス課 | インフルエンザウイルス分離のための細菌培養法について | 滋賀県衛生科学センター | 1 |
| | 生活環境課 | アメーバ類の検査に関する研修 | 神戸市環境保健研究所 感染症部職員 | 2 |
| | 生活環境課 | レジオネラ属菌検査研修 | 奈良県保健研究センター 細菌担当 | 1 |
| | 微生物課 | 動物からのカプノサイトファーガ・カニモルサス検出、分離法 | 福岡県保健環境研究所 | 2 |
| | 微生物課 | 呼吸器感染症ウイルスのマルチプレックス・リアルタイムPCR法 | 和歌山市衛生研究所 | 2 |
| | 健康危機管理課 | 感染症情報センター業務の情報交換 | 奈良県保健研究センター | 1 |
| | ウイルス課 | ウイルス分離のための細胞培養法について | 滋賀県衛生科学センター | 1 |
| | 食品化学1課 | 施設見学 | 北海道立衛生研究所の職員 | 1 |
| | ウイルス課 | 熱帯感染症について | 大阪大学 医師研修コース(指導医) | 8 |
| | 細菌課 | JICA課別研修「獣医技術研修」コース見学訪問 | 公益財団法人畜産技術協会 | 9 |
| | 微生物課 | 赤痢アメーバの遺伝子検査 | 彦根市立病院臨床検査科 臨床検査技師 | 1 |
| | 生活環境課 | レジオネラ属菌検査に関する技術研修 | 奈良県保健研究センター 研究員 | 1 |
| | 細菌課 | 麻痺性貝毒検査 | 神戸市保健福祉局保健所食品衛生検査所 | 2 |
| | ウイルス課 | 衛生害虫関係業務研修 | 環境衛生関係新規採用職員 | 9 |
| | ウイルス課 | 所内ウイルス課施設（兼 研究打ち合わせ） | 山形県衛生研究所 | 1 |
| | | | (小計) | 78 |

合計 350